

平成26年7月17日

第2回愛西市小中学校適正規模等検討委員会 会議録

署名者

委 員 _____

委 員 _____

第2回愛西市小中学校適正規模等検討委員会 会議録

開会日時 平成26年 7月17日(木) 午前10時00分
閉会日時 平成26年 7月17日(木) 午前11時30分
場 所 愛西市役所八開庁舎 第1会議室

■ 出席委員

委員長	伊藤勝康
副委員長	佐藤重樹
委員	伊藤千恵
委員	鬼頭朋子
委員	伊藤正憲
委員	杉山礼子
委員	佐藤有見子

■ 欠席委員

委員	平晋一郎
----	------

■ 事務局

教育長	加藤良邦
教育部長	五島直和
教育部次長	高山典彦
学校教育課長	佐藤信男
課長補佐	鈴木一代
課長補佐	近藤幸敏
主事	市橋美紗希

■ 傍聴者

なし	
----	--

1 開会

2 前回会議録の承認

3 議題

(1) 会議資料説明

(2) 適正規模及び配置の適正化の必要性について意見交換

(3) 適正な学校規模・学級規模の基本的な考え方について意見交換

(4) 次回会議の日程及び議題について

(5) その他

4 閉会

<p>【事務局】</p>	<p>(開会宣言)</p> <p>ただいまより第2回愛西市小中学校適正規模等検討委員会を開催させていただきます。</p>
<p>【事務局】</p>	<p>本日、平委員につきましては欠席の連絡がありましたのでご報告致します。</p> <p>「前会会議録の承認」について、前回の会議録につきまして承認の署名を頂きましたのでこちらもご報告を致します。</p>
<p>【委員長】</p>	<p>皆様、おはようございます。</p> <p>議題を進めたいと思います。議題1「会議資料説明」について事務局から説明をお願いします。</p>
<p>【事務局】</p>	<p>資料の説明を始める前に、前回の資料に誤りがありましたので、訂正をお願いしたいと思います。</p> <p>資料10 「愛西市の財政」について、前回、平成17年と平成26年の比較と説明しましたが、平成19年と平成26年の比較でした。</p> <p>資料20 「学校施設等の概要」について、学級数と児童数の表につきまして、特別支援が普通学級の数に含まれている箇所がありました。含まない形で統一いたしました。</p> <p>同じ資料の勝幡小学校、佐織西中学校の校地面積の積算誤りがありました。また、同じ資料の立田北部小学校の耐震補強工事年度について前回の資料で平成17年と書かれていましたが、平成17年と平成20年の誤りでしたので、お詫びして、訂正を致します。</p>
<p>【事務局】</p>	<p>次に第1回愛西市小中学校適正規模等検討委員会における回答を致します。</p> <p>愛西市の財政支出の内訳の中で扶助費が増加傾向にある説明を受けたが、児童に関する支援や経費はどのくらいか、といった質問です。</p> <p>平成19年度につきましては児童生徒に対する扶助費は3,800万円であります。平成26年度につきましては4,300万です。内容につきましては就学困難な児童生徒の保護者に対する就学援助費です。</p> <p>次の質問です。義務教育諸学校等の施設費の国庫負担に関する法律施行令第4条、通学距離が、小学校はおおむね4キロメートル以内、中学校はおおむね6キロメートル以内であること。これは国庫負担を受けるための基準ですか。</p> <p>こちらは、国庫負担を受けるための条件のひとつです。具体的に距離</p>

	<p>が示されている資料が他に有りませんでしたので、この距離を参考にしています。</p> <p>次の質問です。小学校、中学校を運営するのにどの位の予算が必要か、2校を1校にした場合の運営予算の違いについて回答します。</p> <p>平成26年度の教育費の予算から、小中学校の運営に必要な予算のみを計算した結果、小学校は12校+分校1校分で、おおよそ7億8,800万円。中学校は6校で、おおよそ7億1,300万円の経費がかかっている。</p> <p>現在の小中学校の規模はまちまちで、予算もまちまちであるので、2校を1校にした場合の運営予算の違いについての計算は出来ません。</p> <p>次の質問です。佐屋西小学校の耐震基準について昭和56年の南館の耐震について工事は終わっているのか、回答します。</p> <p>昭和56年建築の佐屋西小学校の南館校舎については、建築確認申請時において、新基準での対応となっています。よって耐震工事の対象となりません。</p> <p>次の質問です。体育館や校舎を建築した場合、何年くらいもつか、耐用年数はどのくらいか回答します。</p> <p>「建物の耐震年数の基準」について、2例紹介します。ひとつは法定耐用年数と呼ばれるもので、財務省の「減価償却資産の耐用年数等に関する省令」の表に建物の構造・用途ごとに記載されている年数とされています。これによれば、鉄筋コンクリート造の「学校又は体育館用」の耐用年数は、従来60年であったのが、平成10年の改正で47年となっています。しかし、これは減価償却費を算定するためのものです。</p> <p>文部科学省の学校施設のあり方に関する調査研究協力者会議がまとめた「学校施設の老朽化対策についての報告書」の中に脚注で紹介されている社団法人日本建築学会の昭和63年「建築物の耐久計画に関する考え方」によれば、建物全体の望ましい目標耐用年数として、鉄筋コンクリート造の学校の場合、普通品質で50～80年、高品質の場合は80年～120年とされています。</p> <p>以上を前回の質問事項に関する回答とします。</p> <p>【委員長】</p> <p>ありがとうございました。</p> <p>なにかご質問はありますでしょうか。無いようですので、資料説明を進めたいと思います。</p> <p>【事務局】</p> <p>それでは資料の説明に入りたいと思います。</p> <p>小規模校のメリット、デメリットについて、小樽市の事例について説</p>
--	---

	<p>明します。</p> <p>小樽市の学習指導・生活指導のメリットとして、児童生徒一人一人に全教職員の目が届きやすい。子供同士の中で緊密な人間関係がつけられやすい。学校行事や児童会活動などで学習発表会の機会や活動の場を多く設定できる。とあります。</p> <p>デメリットとして、クラス替えがないまま進むため、同じ集団の中で互いの評価が固定しやすい。小さな集団では、子供同士の人間関係がつまづいた場合にその修復に向けた対応が難しくなる。クラブ活動や部活動の内容に影響を及ぼし、児童生徒の希望にこたえることに支障が出る。たとえばサッカーなどの大人数での部活動に支障がでるといことです。運動会などの学校行事において、全体的な盛り上がりには欠け、高学年に負担がかかる。</p> <p>次に教職員に対するデメリットとして、引率が必要な修学旅行や郊外学習など教員の補佐の対応が十分とりにくい。校内での危機管理の面やそれぞれの教職員の担当する校務割合の面で課題がでる。</p> <p>次に保護者や地域との関係でのメリットとして特に、郊外にある小規模校は周囲の自然を生かした授業への取り組みや近くの住民と親密な関係をつくることができやすい。</p> <p>デメリットとして、PTA活動等で保護者一人当たりの負担が増える事や、修学旅行などの児童一人当たりの経費負担が大きくなる傾向がある。</p> <p>次に施設や教材でのメリットとして体育館や特別教室など学校の施設が余裕をもって使用できる。</p> <p>デメリットとして施設維持費や光熱水費など学校の運営に関する管理コストがかさむ。</p> <p>小樽市ではこういった内容で取りまとめております。</p> <p>丸亀市の事例について説明します。</p> <p>学習指導、生活指導の面でのメリットは児童生徒間のコミュニケーションがとりやすく、相互理解につながり、学校全体で助け合う気持ちが育つなど人間関係が深まりやすい。学年を越えた活動により、若年者をいたわり、年長者を尊敬する関係が生まれる。児童生徒一人ひとりに対して、心の通う生徒指導や健康状態に配慮することができる。小回りが効くため、他校との交流等機動性に富んだ教育活動ができる。学校行事や児童生徒会活動などで一人ひとりの活動の場が増え参加意識や一体感が芽生え、責任感が育つ。授業での発表の機会が多い。</p> <p>デメリットとしては仲間からの刺激が少なく、集団の中で切磋琢磨や競い合いの気持ち、また覇気やたくましさが育ちにくい。人間関係や交</p>
--	---

<p>【事務局】</p>	<p>友関係に序列が生まれ、児童生徒間で互いの評価が固定する傾向がある。様々な意見の交流が少なくなるなど、多様な価値観が育ちにくい。クラス替えができず、多様な意見や発想、創意工夫が生まれにくい。行事や部活動の種類が限定され、個性や特性を伸ばすチャンスに欠ける。音楽や体育活動など、集団で行う教科の学習が制約されることがある。グループ間の発表を聞いて比較する活動が制約されることがある。学校行事等における役割が固定化しやすい。</p> <p>次に施設・教材の関係です。メリットは、教材教具の割り当てが多く、施設設備が余裕を持って活用できる。</p> <p>デメリットは、学校図書や教材教具の種類が少ない。</p> <p>教職員に関するメリットは、学校指導方針等の共通理解が図りやすい。</p> <p>デメリットは、教員が少ないため運動会など学校行事の円滑な運営、また緊急時における対応が難しい。学年の担任や教科担任が一人であると学年としての取り組みや、教材の協議ができない。</p> <p>次に保護者・地域との関係としてのメリットは、地域や保護者の支援を頼む場面も増えるため、地域ぐるみの教育が展開できる。</p> <p>デメリットとして、地域や保護者に支援を頼む場面が増え、地域や保護者の負担が大きくなる。</p> <p>丸亀市はこういった内容で取りまとめております。</p> <p>大規模校のメリット、デメリットについて。</p> <p>丸亀市を見てみますと、学習指導・生活指導のメリットは集団の中で仲間から刺激を受け、認め合い、協力し、高めあうことで成長できる。教職員や児童生徒から多くの情報が得られ、多様な価値観が育つ。クラス替え等により交流範囲が広がり、新たな集団において人間関係が生まれ、社会性が育まれる。少人数指導やティームティーチングなど個に応じた指導が実施しやすい。学校行事や学習活動で集団の力が発揮され、学校が活性化する。</p> <p>デメリットとして、学年内、他学年間の交流や理解が不十分となりやすく、全校的な人間関係や信頼関係が希薄になる恐れがある。児童生徒一人ひとりに目が届きにくくなり、生徒指導や健康状態の把握が難しくなる。集団が大きくなるため、学校行事や児童生徒会活動などで一人ひとりが活躍する機会が少なくなる。教職員が児童生徒の一人ひとりを理解したり、全体を把握したりすることが難しい。集団が大きくなり、学校行事等において練習時間や練習場所の確保が難しくなる。郊外学習や就学旅行など、学年集団としての動きに時間がかかる。学級数が多くなると、各学級の学習進度の調整、指導方法の徹底が難しくなる。学校行</p>
--------------	---

	<p>事等において全学年の児童生徒の参加が困難な場合が発生する。</p> <p>次に教職員に関するメリットとして、教職員が確保され、児童生徒の多様な興味や関心に応えた部活動の選択肢が広がる。教職員一人当たりの校務分掌が軽減し、指導体制や教育活動が充実する。各学年に複数の教員が配置され、学年としての取り組みや教材の協議ができる。</p> <p>デメリットとしては、教職員相互の連絡調整や連携が不十分となりやすく、学校内の教育目標や活動の一貫性に欠ける可能性がある。保護者・地域との関係でのメリットは、PTA活動などにおいて豊かな活動を支える体制や予算編成ができる。</p>
【事務局】	<p>続きまして、複式学級のメリット、デメリットについて、</p> <p>山鹿市では、学習指導のメリットとして、上学年の理解力の定着や下学年の学力向上、自学自習の力をつけることができる。</p> <p>デメリットとしては、授業時間の実質的な確保ができにくい。学年に応じた学習となりにくい。</p>
【事務局】	<p>適正配置による効果として、笠間市では、学習指導・生活指導の面で単学年（1学年1学級）が解消され、クラス替えができることによって人間関係が固定化しにくくなる。集団生活によるコミュニケーション能力の形成が期待できる。多様な人間関係の中で競争意識が醸成され、お互いの切磋琢磨につながる。部活動の選択肢が拡大する。</p> <p>学校運営では、将来にわたって複式学級を解消することが出来る。</p> <p>教職員としては、中学校のすべての教科に担任を配置することが出来る。中学校の主要5教科に複数の教員を配置することが出来る。</p> <p>保護者・地域との関係では、PTA活動や学校行事における保護者の負担が軽減される。ということです。</p> <p>以上が他の市町による小中学校適正規模等における検討内容の事例紹介です。</p>
【事務局】	<p>次に、資料22 愛西市立小学校区図について説明をします。こちらの資料には愛西市の町名及び小学校区、学区の大体の面積、配置が記載されています。</p>
【事務局】	<p>次に、資料23 愛西市立小学校通学路図について説明をします。線で記しているのが通学路です。それぞれの小学校を中心にして半径1キロの円を表示しています。生徒の通学距離、隣の学校との距離、そういった愛西市全体の小学校の位置図です。</p>

<p>【事務局】</p>	<p>次に、資料24 愛西市立中学校区図について説明をします。愛西市の町名と中学校名が記載されています。中学校のエリア、配置などが確認できる資料です。</p>
<p>【事務局】</p>	<p>次に、資料25 愛西市立中学校通学路図について説明をします。円の距離は半径2キロで表示させています。隣の中学校との距離、通学の距離の長さを示した資料です。</p>
<p>【委員長】</p>	<p>ありがとうございました。それでは、資料説明について質問はありませんか。</p> <p>無いようですので、議題2「適正規模及び配置の適正化の必要性について意見交換」へ移りたいと思います。</p> <p>前回の資料で適正な学級数は12学級以上18学級以下とあります。この辺りが適正であると思われませんが、地域の実態その他により特別の事情のあるときは、この限りではないともあります。12学級以上18学級以下が適正であるかは様々な考え方があると思いますが、愛西市ではどうであるか考えていきたいと思っています。</p>
<p>【委員】</p>	<p>資料にある丸亀市や小樽市などの例えである市では適正規模にしたのでしょうか。</p>
<p>【事務局】</p>	<p>先進地の事例ということで、それぞれの市町で進め方が違うので、この資料までは検討が進んでいる。そういった事例をあげています。</p>
<p>【委員長】</p>	<p>ありがとうございます。それでは、ご意見についていかがでしょうか。</p>
<p>【委員】</p>	<p>自分の子供が小学生のときは23人3クラスで、1クラスあたりの人数が少ないので、一人一人、深く見て頂いていました。</p> <p>中学校で2クラスになり、1クラスあたりの人数が多くなることで今までと違うことに戸惑っている子供の様子もみてきました。</p> <p>社会に出た後のこともあります。今は人生経験など、大切な時期であるので、たくさんの先生がいてくれるという環境がいいと思います。</p>
<p>【委員長】</p>	<p>少ない人数であるメリットということですね。</p>

<p>【委員】</p>	<p>私の子供も保育園、小学校と同じメンバーで、中学校に入ってから始めて別の学校からの子がクラスに入ってきたという状況でした。</p> <p>中学生になった最初の頃は今まで同じ学校に通っていた子の輪には入れるけれども、別の学校から来た子達と馴染めるかという、少し苦勞した事があったようです。</p> <p>中学校1年生の時は2クラスだったのが、中学校2年生では1クラスになり、先生の目が行き渡っているのかが不安でした。ただ、1クラスになった事で、クラスの団結力が上がったと言っていました。</p> <p>しかし、これが社会に出たときや、高校に進んだ時に、同じ学校の子としか接した事がない状況で、次のステップに行けるのかどうかという不安もあります。</p>
<p>【委員長】</p>	<p>特別数が少ない事に困っているという事は無いけれども、先々ではどうかという不安があるということですね。</p>
<p>【委員長】</p>	<p>他に何か意見はありますか。資料を見てみますと、どこも同じようなメリット、デメリットがあるようですが、適性化は必要である事を前提として、適正化について考えて行くという事で適正な学校規模・学級規模の基本的な考え方について意見交換をしたいと思います。</p> <p>通学の距離や時間についてはどうでしょうか？</p>
<p>【委員】</p>	<p>小学校6年間で考えると、毎日で大変な事もありますが、道中に自然観察をしたり、友達関係を築いたりする機会にもなります。</p> <p>距離が遠くても高学年の児童が低学年の児童の手助けをすることが出来るので、距離は気になる程ではないです。</p> <p>しかし、帰りが一人になる事もあるので、学校からも気をつけるように言われています。距離が遠くて大変だと感じたのは小学校1、2年生の頃くらいで、あとは自然に力がついてきたように思います。</p>
<p>【委員】</p>	<p>この間の台風が来たときに通学距離が長い生徒に関しては大変危険だと思った。地区のことを考えて早めに下校させた学校もある。学校ごとにデメリットはあると思いますが、それに対応した教育活動が必要だと思っています。</p>
<p>【委員長】</p>	<p>国庫の基準にある4キロメートルとなると愛西市ではほぼ距離範囲内に学校があると思う。直線ではないので、誤差はあると思いますが、1時間以上かけて学校に通っている生徒はいるのだろうか。</p>

<p>【委員】</p>	<p>2キロメートルある所ですと、集合場所に集まることを踏まえて、6時後半には家を出て、集合場所へ行き、登校をする。2キロメートルの範囲でも1時間近く掛かる。</p> <p>しかし、道中に自然を見たりすることも大切だと思う。2キロメートルの範囲なら良いと思う。</p> <p>距離や時間に関して大きな問題は無いと思います。</p>
<p>【委員長】</p>	<p>子供たちの勉強や友達との過ごし方についてはどうでしょうか。</p> <p>前回の資料でも小規模校の学校が増えてくるということでしたが、これから人数が減っていくことを踏まえて、直すべきことがありましたら意見をお願いします。</p>
<p>【委員】</p>	<p>開治小学校では保育園からそのまま小学校に入る子供が多い。</p> <p>来年の入学児童の数も8人であるので、お母さん方から不安な声もあがっている。</p> <p>保育園では人数が少ないことできめ細やかな対応ができて良いと思うが、小学校生活6年間その人数のままとなると、集団の中で育つものが育ちにくいのではないかと思う。クラス替えで変化がある事は重要だと思う。</p> <p>下校の話だと、人数が少ない事によって一人の下校になりかねない場合がある。不安なので学童保育を利用している方も居る。</p>
<p>【委員長】</p>	<p>制度としては16人以内であると複式学級になるということですが、どうでしょうか。</p>
<p>【事務局】</p>	<p>上の学年や下の学年の人数が多いと適用されない。</p>
<p>【委員長】</p>	<p>福原分校は今現在で少人数ですが、何かご意見はありますか。</p>
<p>【委員】</p>	<p>福原分校の子たちは運動会を立田南部小学校で行っています。人数が多い本校で活動しているときはたくさんの子と触れ合えて楽しそうですが、終わると少し寂しそうな感じがする。</p>
<p>【委員長】</p>	<p>それでは教える側の立場で有ります、先生方から適正化についてのご意見はありますか。</p>

<p>【委員】</p>	<p>学校の施設面において、教室が足りない状況になるのは、適正でない基準になると思います。</p> <p>また、学校運営の面で、学校ごとにある程度のクラス数がないと、教科ごとに専任科目の先生が配置されないので、文部科学省の基準から外れてしまいます。そういう点では人数が少ない場合も適正ではないと思います。</p>
<p>【委員長】</p>	<p>ありがとうございます。文部科学省の基準に満たないからといって、愛西市が市単独で専任の先生を雇うことは難しいと思います。</p> <p>その他のご意見はいかがですか。</p>
<p>【委員】</p>	<p>大規模校の教室が足りない事に関しては同意見です。小規模校になると、職員の出張が重なる場合など人的配置に余裕がない時、子供の指導に困る事があります。</p>
<p>【委員長】</p>	<p>ありがとうございます。それでは、地域の立場として、学校の規模が変わった場合、コミュニティや校区、子ども会など、地区としての問題等がありましたら、ご意見をお願いします。</p>
<p>【委員】</p>	<p>地区の問題を含めて、地区総代は1年で交代することが多く、学校の問題にまで踏み込んでいくことは、現実的に難しい問題であると思う。</p>
<p>【委員長】</p>	<p>ありがとうございました。</p> <p>今回、適正化を目指す方向での検討をしていく事について、子どもや保護者の立場、教える側の立場、また地域の立場からそれぞれご意見を頂きました。昨近の国の政策や小中一貫教育など、教育を取り巻く制度の動きは複雑になってきております。こうした動向を総合的に見極めながら、次回会議においても引き続きご意見を頂戴し、議論を進めていきたいと思っておりますので、よろしく申し上げます。</p> <p>それでは、第2回検討委員会を閉会したいと思います。ありがとうございました。</p> <p>次回は8月19日（火）2時から開催。</p>